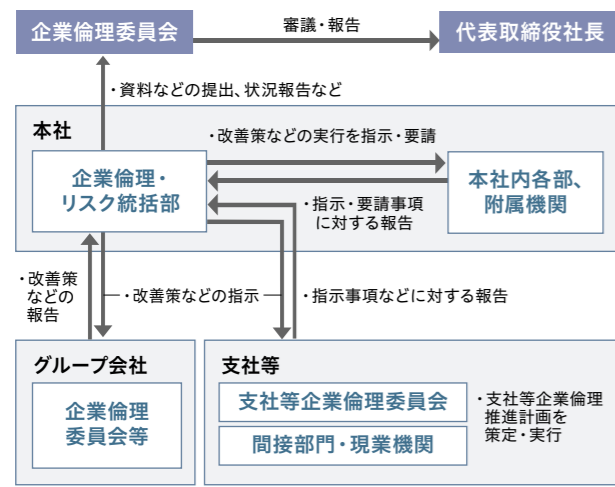


企業倫理委員会運営に関する業務の流れ



推進責任者

取締役兼常務執行役員
総務部長

二階堂 暢俊

基本的な考え方

JR西日本グループでは、コンプライアンスを法令遵守だけでなく、企業の社会的責任を果たすため企業倫理確立に向けた取り組みとしてとらえ、一人ひとりが法令や社会のルールに則り誠実に行動していくことであると認識しています。

社長の諮問機関として、企業倫理委員会を設置し、社会の環境変化に伴うコンプライアンスリスクへの対応や、業務の手順がコンプライアンスに即したものとなっているかなどについて議論し、必要に応じて改善へと結びつけています。

また、2015年5月の改正会社法の施行に伴い、企業集団における内部統制システムの構築・運用が重要視されてきたことを受け、グループ各社の自律的な取り組みへつながるよう、各社の「リスクマップ」におけるコンプライアンスにかかわる重大なリスクへの対策の推進やコンプライアンス違反を防ぐための研修の手法を学ぶ場の設定、全社を対象とした企業倫理アンケートを実施しています。

加えて、不祥事防止に向けた各種取り組みや内部通報制度のさらなる周知、企業倫理推進月間を中心とした、行政への届出の失念などを防ぐためのチェックシートによる確認など、グループ全体としてコンプライアンス向上に取り組んでいます。

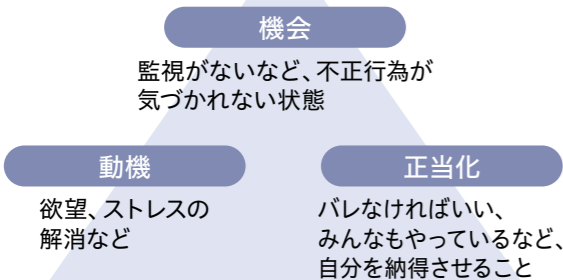
P コンプライアンスの取り組みを自分のこととして捉えられるようになるための教育・啓発

D 「自ら考え、自ら学ぶ」ための教育コンテンツの充実

コンプライアンス違反には「機会」「動機」「正当化」の3つの要素が働いており、これらを踏まえて対策を打つことが違反を防ぐ有効な手段になるという考えのもと、業務の具体的な場面を想定したディスカッション研修を行っています。

管理職社員は上記の考えに基づく具体的な施策について議論し、一般社員は「何が違反行為となるのか」「どのような行動を取るべきなのか」について議論しています。これにより、それぞれの立場に応じた、自分なりのコンプライアンスの取り組みを考えられるようにしています。

不正のトライアングル



出典：ドナルド・R・クレッチャー「不正のトライアングル理論」より

また、教材である「コンプライアンスの手引き」やeラーニング*1では、社員が実感を持って取り組めるよう、業務上の違反行為や企業人として守るべきルールについて具体的事例を交えながら紹介しており、管理職向けには日常のマネジメントにおける留意点をまとめた冊子を配付しています。

加えて、グループ会社にもこれらの研修や教材を提供し、グループ全体でコンプライアンス向上に努めています。



eラーニングに「企業倫理」の基本的知識や最新のテーマを導入

管理職社員として留意すべき点をまとめた冊子「企業倫理の確立に向けて」(写真右側)を配付

用語解説 *1 eラーニング: パソコンなどを活用して、電子教材で学習すること

P コンプライアンス確立に向けた諸施策の推進・体制の整備

D コンプライアンスに関わる重大なリスクの特定・対策実行およびアンケート実施

グループ各社において、発生する可能性があるさまざまなリスクを洗い出して「リスクマップ」を整備するなかで、コンプライアンスに関わる重大リスクの特定やその対策の策定・実行に取り組んでいます。

また、2014年度に初めてグループ会社を対象に企業倫理アンケートを実施して、グループ会社におけるコンプライアンス意識や職場風土の状況を確認し諸課題を把握しました。

D 内部通報制度の浸透・活用を推進

倫理相談室、社外相談窓口を設け、社員からの連絡・相談を受けられる体制を整えるとともに、迷いが生じたときに立ち止まって考え直すことを促すために「4つの自問」のメッセージを発することにより、社員の内面に働きかける取り組みを行っています。

なお、内部通報制度については、社内誌や教育の機会などを捉えて広く周知しており、グループ会社からの相談なども寄せられています。これらに対しては事実関係を調査し、再発防止に努めています。

啓発ポスターで「4つの自問」のメッセージを発信



Voice 私の次の一歩

役員キャラバンによるアンケート結果のフィードバックを実施しています

㈱ジェイアール西日本ビルト
経営管理部
担当部長 磯川 健太郎



当社では、経営陣を構成員とした企業倫理委員会を設置して、定期的に企業倫理の取り組みについて議論するとともに、2010年度以降毎年、社員全員を対象に「社員アンケート」を独自に実施し、社員の声や意識の変化を把握して社員へフィードバックしています。

2014年度は、「社員アンケート」とJR西日本グループの「企業倫理アンケート」の結果を比較・分析することによって当社の課題を抽出し、当社の企業風土の変革や組織と職場の改善および活性化に役立てるため管理者層へ説明するとともに、本社常勤役員が各支店・営業所を訪問し、各社員にアンケート結果を直接説明して意見交換を実施しています。

常勤役員による各支店・営業所訪問(キャラバン)の様子



取引先様からのコンプライアンスに関する連絡・相談を受けるため、「公益通報窓口(取引先様で働いている方専用)」を設置し、取引先様に活用をお願いしています。

公益通報窓口URL

HP <http://www.westjr.co.jp/company/action/compliance/#frame>

C アンケート結果を踏まえたグループ各社での課題認識および効果的な対策の実施が必要

2014年度にグループ会社を対象に実施した企業倫理アンケートの結果を踏まえ、2015年3月にグループ会社の総務担当責任者を対象として、アンケートを監修いただいた岡本浩一・東洋英和女学院大学教授による講演会を開催し、アンケート結果のフィードバックと取り組むべき課題の共有を行いました。

今後の改善に向けて、グループ会社がそれぞれの課題を認識し、解決に向けた具体的な対策を検討し実施する必要があると考えています。

また、アンケート結果からは、倫理相談窓口や「4つの自問」の認知度についても向上させる余地のあることが判明しました。



‘15 3月
岡本浩一・東洋英和女学院大学教授の講演会を開催

A JR西日本グループ一体となって、企業倫理に係る課題の解決や社員の意識向上を図ります

企業倫理委員会において、企業倫理アンケートの結果などを踏まえ、企業倫理の向上につながるテーマを選定し、そのなかで出された意見を各取り組みに具体的に反映させていきます。また、倫理相談窓口、「4つの自問」の周知を継続的に行うとともに、内部通報制度の趣旨などについての理解の浸透に努めます。

今後は、JR西日本グループ全体としての企業倫理の向上を図るため、グループ各社が、アンケートをはじめとする現状分析の結果見えてきた課題の解決に向け、実態に合った自律的な取り組みを行えるよう、アンケートの継続実施や教育の支援などを行っていきます。